

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 15 日現在

機関番号：21501
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2009～2011
 課題番号：21520267
 研究課題名（和文）女性作家と性的言説による長い十八世紀の公／親密／私的空間の変容に関する学際的研究
 研究課題名（英文）An Interdisciplinary Study of Transformations of Public / Intimate / Private Spheres Wrought by Sexual Discourses of Female Writers in the Long Eighteenth Century
 研究代表者
 梶 理和子（KAJI RIWAKO）
 山形県立保健医療大学・保健医療学部・准教授
 研究者番号：60299790

研究成果の概要（和文）：本研究は、女性にまつわる性的言説の生産と流通を明らかにすることで、長い十八世紀における公的／親密／私的空間の変化を、女性作家研究やジェンダー研究の観点から明らかにした。具体的には、女性の（性的表現を利用する／性的表現と結びつけられる）言説、女性（作家／読者）と知的ネットワークやマーケットとの関係性、および、女性と当時の「知」のあり方や、その構築過程との関係性を分析した。

研究成果の概要（英文）：This study clarified transformations of public / intimate / private spheres in long Eighteenth century England by illuminating how discourses concerning female sexuality were created and circulated. For that, these complicated relationships have been considered and analyzed on the basis of recent studies of female writers or gender; relations between women's discourses which included sexual expressions and those associated with sexual implications; women writers / readers and intellectual networks and markets; women and constitution of knowledge or its construction process.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学・英米文学

キーワード：長い十八世紀、女性作家、公共圏、親密圏、性的言説、知的ネットワーク

1. 研究開始当初の背景

近年、十七・十八世紀の女性（劇）作家の誕生の経緯と彼女たちを取り巻く文化的状況の解明が進められており、研究代表者も同様の関心から、十七世紀英国における職業的女性劇作家の誕生と出版・著作権の問題といった研究を行ってきた。また、十八世紀の公共

圏における女性の役割に関する研究が、新たなジェンダー論的観点を提示しつつあることを受け、その後、「長い十八世紀」における女性作家の相互依存性と公共圏の問題に関心を広げてきた。そこで、作家による上演／出版というメディア戦略、新たな定期刊行物の登場と「知」の構築／流通、女性作家間の影響／協力／敵対関係などを総合的に分

析してきた中で、十八世紀初頭の、これまで等閑視されてきた女性作家の再発見や、ジェンダー論からの十八世紀公共圏に関する再考をおこなってきた。

しかしながら、これまでは主に女性作家と公共圏に注目してきたが、研究をさらに進める上で、公共圏の生成変化において重要な役割を果たす、作者／読者も含めた親密圏、私的空間への目配りも一層必要であるとの認識に達した。更に、これら三つの空間を考察する際には、「長い十八世紀」において、グローバル化するイングランドと、国家像の変貌に伴うその国民の心性の変化も視野に入れる必要があると考えるようになった。

本研究は、これまでの研究をさらに進めるために、性的言説が、公／親密／私という諸空間にどのように流通し、これらの空間にどのような変化をもたらしたのかという問題を検討することを目的とした。そこで、テキストの流通と女性にまつわる性的言説、そして女性作家の作品を受容した層に注目し、性的言説の生産と流通の仕組みを明らかにすることで、「長い十八世紀」における公／親密／私的空間の変化について、女性作家研究、ジェンダー研究の観点から、より多様な分析をおこなうことが可能になると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、女性職業作家が本格的に登場した十七世紀後半から始まる、いわゆる「長い十八世紀」において、女性作家にかかわる性的言説の拒絶／受容がいかなるものであったのか、またこの拒絶／受容に伴い、どのような公私空間の生成変化が生じたのかを、女性の政治的言説と性的言説、それらの受容層の関係性の分析を参照しつつ、明らかにすることを目的とした。

具体的には、公共の場所や出版物などで形成される公共圏、家庭内・個室での営みからなる私的空間、それらの中間に存在するサロンやクラブなどの親密圏が、女性作家〔により生み出される／に投げかけられる〕性的言説を、どのように取り入れ／排除することで、変化していったのかを検証する。それによって、従来の女性作家／読者研究の読み直しがはかれると考えた。また、以上の検証作業の際に、帝国化に伴う新たなグローバル空間が英国において創造／想像されていく過程との関係性も合わせて考察することも視野に入れることとした。

3. 研究の方法

「長い十八世紀」における女性作家と性的言説の関係、そして性的言説と絡んだ公共圏／親密圏／私的空間の生成変化の過程を、文

学的・歴史的・文化的(コン)テキストから考察するために、理論的基盤を整理しつつ、具体的なテキスト分析という二方向からの作業をおこなう計画で、具体的作業は以下のとおりであった。

(1) 女性作家による性的言説の分析 (テキスト分析)

これまで劇作家として研究してきたデラリヴィエール・マンリーやキャサリン・トロッターなど、十八世紀前半に活躍した女性作家の散文に焦点を当て、性的言説に関する作家の戦略を、以下の三点から、演劇作品と比較しながら考察した。

① ジェンダー的観点
政治的／性的言説において、女性というジェンダーがどのように機能していたか、主に作品分析により検証した。その際、「理想的」とされる女性像がいかに利用されていたかを探りつつ、男性作家／出版者／(文学)サークルとの関係性等も視野に入れて整理した。

② 商業マーケット的観点
英国の帝国化に伴い、新しい情報や珍品を求める欲望が高まる中で、国外(海外)／国内の境界、公的／私的領域の境界が規定されると同時に不明瞭化していく過程を、文学／政治(外交)／商業等の女性による(に關する)テキストから検証した。

③ 文化ネットワーク的観点
当時の知的・文化ネットワークが、女性作家／読者を、どのように受容／排除したのか、性的言説をどのように流通させていたのかを文化史的に考察することで、女性と各文化的ネットワークとの関係性を検証した。

(2) 公共圏、親密圏、私的空間の関係性に関する、国内外の一次資料の収集

テキスト分析の基盤として、物品と情報を流通させるネットワークについて、基礎的な資料収集の作業を学際的におこなった。また、以後の研究計画のために、(1)からもたらされる仮説に基づき、資料を分類・整理した。

① 国内外の流行・文化に関するテキスト収集と分類・整理
当時のさまざまな流行に関するテキストを(一次資料、二時資料も同時に)収集し、とりわけ、性的言説との関係性という観点から、分類・整理することによって、(1)の文学テキストとの関連性を辿りやすい

形にした。

- ② 私的空間／親密圏／公共圏関連テキストの収集と分類・整理
当時の日記類などの私的空間を記録したテキストを収集するとともに、サロンなどでの社交の記録、そして、公共圏で流通していた私的空間、親密空間に関するテキスト（一次資料、二次資料）を収集し、分類・整理した。

- ③ 一次資料の分類・整理
マイクロフィルム等から収集した一次資料を、スキャナーによる取り込み、およびOCRによる文字認識、そしてデータベース化の作業をおこなった。

(3) 理論的位置づけ

(2)の資料の収集に加えて、それらをどのように理論的に考察する可能性があるかという観点から、整理をおこなった。女性作家研究という分野を、より広い異なる研究分野と結びつけることで、理論的基盤の整理をはかった。具体的には次の五点の理論的立場との関係性を考察した。

- ① ジェンダー／フェミニズム理論（女性らしさの形成、ゲイ・レズビアン批評）
- ② 「帝国」研究（商業ネットワークおよび植民地主義批評）
- ③ 公的／私的領域の制度化に関する研究（公共圏、流行の研究）
- ④ 女性読者研究（読者論と出版文化研究）
- ⑤ 「知」の体系化に関する問題（系譜学とジャンル論に関する研究）

(4) 女性作家と公私空間の関係性の検証

(3)の理論的成果に基づいて、(1)の女性作家／読者と性的言説が、(2)のグローバルな状況の中で、私的空間から公的空間までの諸空間をどのように変えたのかを具体的に分析した。その際、性的言説がどのように利用、抹消されたのかを、以下の二点から考察することで、性的言説をめぐる異種混濬的な力関係の一端を明らかにすることを試みた。

- ① 作者の側から、他の作家や読者をどのように意識し、どのような共犯関係を結び、どのような対立、影響関係を形成していたのかを分析した。
- ② 性的言説の流通を許容／規制した当時のマーケットの状況、すなわち受け手の側の受容の戦略も考察に加えた。

(5) 新たな女性作家研究の視座の提示

(3)での理論研究に基づく、具体的な(1)、(2)、(4)のテキスト研究と平行して、性的言説と公的／親密／私的空間との関係から、女性作家研究に新たな視座の提示を試みた。そのために、当該研究の専門知識を有する研究者との情報交換等によって、上記の理論、テキスト分析への外部からの批判的検討を依頼した。

(6) 研究の総括

(1)から(5)の成果を踏まえた上で、「長い十八世紀」のグローバルな状況下の英国における女性作家、性的言説、公共圏、親密圏、私的空間との関係をめぐる研究の総括をおこなった。その際、学際的研究の有効性を提示しつつ、ジェンダー研究の観点からの、新たな文化研究の可能性を示唆すると同時に、「長い十八世紀」の女性作家について、演劇と小説という異なるジャンルの連続性と断絶を考慮に入れて、新たな視点からの文学ジャンルの見直しをはかった。

4. 研究成果

従来、女性の文学サロンの登場に関する研究や、公的／私的領域の区分と女性読者の誕生の問題を関連づける研究は、ややもすると女性を公的領域（公共圏）から締め出し、私的領域（親密圏）へと閉じ込める社会の機能を前景化する解釈へと陥りがちであった。具体的には、風俗改善を求める声や、女性の振る舞いを規定するコンダクト・ブックの人気の高まりとともに、「たしなみある女性」の姿が構築され、幅広い階層にまで浸透していく、そのような社会の（見えにくい、隅々まで浸透する）権力の作用に焦点を当てる傾向にあった。

本研究は、性的言説に注目し、それが単純に公共圏から閉め出され、閉じこめられたという考え方をとるのではなく、さまざまなかたちで公的／親密／私的領域に受容されていたことを確認し、同時に国内外のグローバルなネットワークの中で、この流通の状況を明らかにした。具体的には、以下のとおりである。

(1) 女性作家による性的言説の分析 (テキスト分析)

デラリヴィエール・マンリーら、十八世紀前半に活躍した女性作家の散文に焦点を当て、性的言説に関する作家の戦略を、ジェンダーの観点、商業マーケット的観点、文化ネ

ネットワーク的観点の三点から、演劇作品と比較しながら考察した。そこで、女性作家の言説が、どのように受容／排除されているのかを、出版の社会的、商業的背景とも絡めて考察し、女性と諸空間との関係の一端を明らかにするために、性的言説の流通および受容を分析した。とりわけ、「長い十八世紀」において、性的な言説が、どのようにして受容可能なものに変形され、選択的に取り入れられたか、あるいは、危険性をはらみつつも、入り込んでいったかという、異なる受容のされ方を明らかにした。

(2) 公共圏、親密圏、私的空間の関係性に関する、国内外の一次資料の収集

テキスト分析の基盤として、物品と情報を流通させるネットワークについて、基礎的な資料収集の作業を学際的に行い、また、女性作家による性的言説の分析からもたらされた仮説と(3)の理論研究の成果を活用することで、外交／商業関連等の一次資料、英国内の流行・文化に関するテキスト、私的空間／親密圏／公共圏関連のテキストを収集・分類・整理した。

また、英国の帝国化に伴い、知的／経済的好奇心もグローバル化し、新奇な情報(物語・旅行記・ニュース)や珍品(動植物や商品)が輸出入されるようになった。このような状況の一端を確認するために、女性を対象とした流行を形成する海外からの情報や知識、物品の流通経路に関するテキスト(一次資料、二次資料)のうち、性的言説と結びつくものを収集し、当時の女性をめぐる国内外のネットワークとマーケットの一端の再構築を試みた。

(3) 理論的位置づけ

(2)の資料収集に加えて、それらをどのように理論的に考察する可能性があるかを検証、整理した。女性作家研究という分野を、より広く検証するために、ジェンダー／フェミニズム理論(女性らしさの形成、クエア理論)、英国の帝国化に関する研究、公的／私的領域の制度化に関する研究(公共圏、流行の研究)、女性読者研究、「知」の体系化に関する研究といった、さまざまな研究分野との関係から考察した。

(4) 女性作家と公私空間の関係性の検証

女性作家／読者と性的言説が、私的空間から公的空間までの諸空間を、グローバル化するイングランドの中で、どのように変えたのかを具体的に分析した。すなわち、新しい知識や珍品に対する欲望の高まりは私的空間の

中にも入り込み、私邸で、密かに珍品を集め、さまざまな種類の書籍を所有する女性が増え、その一方で、共通の興味をもった女性の私的な(親密な)サークル(珍品の展示、それを賭けるギャンブルなど)も登場する。このようなテキストを分析することで、公共圏、親密圏、私的空間が相互に影響を与えて、生成変化していく過程を検証し、その過程に、どのように性的要素が介入していたのかを明らかにした。

(5) 新たな女性作家研究の視座の提示

「長い十八世紀」のグローバルな状況下の英国における女性作家、性的言説、公共圏、親密圏、私的空間との関係をめぐる考察をおこなう一方で、理論研究に基づいて、具体的なテキスト研究をおこなった。学際的研究の有効性を検証し、ジェンダー研究の観点から、新たな文化研究の可能性を探り、性的言説をめぐる異種混濁的な力関係の一端を明らかにし、演劇から小説へと流行の主流が変わるとされる、従来の文学史に対して異なる解釈の見直しを提起した。

(6) 研究の総括

以上の作業から、本研究では、文学研究以外の研究成果を取り込むことで、女性の(性的表現を利用する／性的表現と結びつけられる)言説を考察し、女性(作家／読者)と、知的ネットワークやマーケットとの関係性、および、女性と、当時の「知」のあり方や、その構築過程との関係性を明らかにした。その際に、女性の政治的言説の問題についても、アンソロジー的に紹介するに留まらず、「長い十八世紀」における(女性をめぐる)「知」の体系化の一環として、歴史的、文化的、経済的、そしてジェンダー的観点から総合的に考えることが可能となった。一方で、女性読者に関わる問題を視野に入れることで、演劇から小説へと流行の主流が変わるとされる、従来の文学史的な見方に対しても、異なる解釈の可能性が提示できたと考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

- ① Riwako Kaji, *Compassionate / Dispassionate Women: Representations of Female Sexuality in the Novels by the Female Wits*, Shiron, 査読有、45、2010、1-22.

〔学会発表〕（計 1 件）

- ① 梶理和子、「賭ける／賭けられる女性と
Morality: Sexuality から Fairness へ」、
第 50 回日本シェイクスピア学会、2011 年
10 月 22 日、聖心女子大学.

〔図書〕（計 1 件）

- ① 喜志哲雄監修、圓月勝博ほか、松柏社、『イ
ギリス王政復古演劇案内』、2009、全 276
頁（58-75/234-35）.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

梶 理和子 (KAJI RIWAKO)
山形県立保健医療大学・保健医療学部・准
教授
研究者番号：60299790

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：